

# 視 察 調 査 報 告 書

委 員 会 名	議会運営委員会
参 加 者	委員長 内田 実 副委員長 三宅 健司 委員 木全 昭子 小田 高之 井町 圭孝 井手瀬 絹子 加藤 学 築瀬 太 山崎 憲伸 議長 加藤 義幸 副議長 畔柳 敏彦
視 察 日 時	平成30年 5月15日（火）10：00～12：00
視 察 先 ・ 概 要	東京都品川区 人口：391,239人 世帯数：218,847世帯 面積：22.84 k m <sup>2</sup> 特記事項：住みよさランキング2016（東洋経済）総合511位 （安心708位、利便296位、快適30位、富裕1位、住居808位）
視 察 項 目	「議会改革の取り組み」について
視 察 概 要	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 議会改革の検討組織・改革の取り組み状況               <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 1期「議会のあり方検討会」（平成23年7月～25年4月） 本会議のケーブルテレビ放映拡大や本会議のインターネット生中継の実施など</li> <li>・ 2期「検討会後、議運等で検討」（平成25年5月～27年7月） 費用弁償の見直し、本会議・委員会の長期欠席議員の報酬減額、難聴者補助設備設置、議会運営委員会の公開、議案・委員会資料の公開、出席を理由とする本会議・委員会欠席の会議規則改正など</li> <li>・ 3期「議会改革検討会」（平成27年7月～29年3月）3分科会で検討 区議会ホームページの全面リニューアル、議会報告会・意見交換会の実施、議案・委員会資料のホームページ公開、文書共有システム・タブレット端末を活用した議会審議、区議会だよりの編集方法変更やタブロイド版からA4版へ など</li> <li>・ 4期「各種会議体による検討」（平成29年7月～） ICT推進会議：グループウェアでの委員会招集通知、請願・陳情の付託原本を電子化し、SideBooksに登録など 広報会議：区議会だよりのデジタルブック配信（多言語対応）など</li> </ul> </li> <li>2 ICT化の推進               <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 目的は対外的発信力の強化、議員活動の強化、議会運営機能の強化のため。厚い冊子を持ち運ばなくてもよく、外に持ち出せるため、地域の人への説明時に役立つなど議員活動の効率化につながる</li> <li>・ タブレットは2種類で、議員（事務局）はiPad（操作性が良かった</li> </ul> </li> </ol>

	<p>め) 理事者はWinタブレット(通常業務の資料等を審議で活用するためLan接続できる機種、セキュリティのため持ち出せないように)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ クラウドはSideBooksで、委員会資料等を全てシステムの中で保管、キーワードによる資料の横断的検索も可能、会議の説明時にページ通知機能により皆が同じページを開くことができる</li> <li>・ グループウェアはdesknets NEOで、メールや回覧機能を用いて連絡の効率化などを図るほか、議員の安否確認にも活用</li> <li>・ 平成27年の議会改革検討会の機能強化分科のICT班の検討開始から導入までには2年ほどかかった</li> <li>・ タブレットに関する議員アンケートでは、タブレットの利用状況としてSideBooksやグループウェアのほか、会議録の利用やメモの記録が多い。紙資料の配付希望の意見もあるため、当面は紙資料との併用する点やタブレットの会議中充電をどうするかなどが課題</li> </ul> <p>3 議会報告会及び学生との意見交換会</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 議会報告会では、委員長報告の後に報告に対する質問回答を行い、その後クイズを行ってから意見交換会を行っている</li> <li>・ 議会報告会は回を追うごとに人数が減少しており、集客が課題</li> <li>・ 意見交換会は品川女子学院中等部1年生13名と住民参加分科会所属議員13名で「地域課題の解決に向けて」をテーマとして第1回目を平成28年11月に開催。2回目は29年11月の意見交換会だけでなく、課題の中間発表の授業や9月の文化祭での発表にも参加</li> <li>・ 意見交換会開催のきっかけは、学校側は授業の一環として地域課題の解決をテーマに授業を進めたいとの思いがあり、議会としては議会報告会の新たな手法ができないか検討していた中で、地元議員のつながりで両者の思いがマッチングしたため</li> </ul>
<p>所 感</p> <p>視察しての感想や岡崎市への提言など</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 議会報告会の運営方法を決めるに当たり、柔軟な対応ができるようにしておくことも必要である。条例などに明文化することは望ましいと考えるが、あまりハードルが高いとそれにしぼられることになり、継続性がなくなってしまう。計画・運営・見直しすべて議員が行う。</li> <li>・ 品川区は人口規模が本市とほぼ同じ自治体である。平成23年より区議会の改革に息長く取り組んで、費用弁償の見直し、大地震等災害発生時の議会・議員の対応・訓練、議員の出産等に対する対応、タブレット端末を活用した議会審議など改善が行われていた。ICTの活用は議員によって様々とのことだが、今後本市議会でも検討が必要ではないか。品川区は議会基本条例を制定していないが、平成28年より議会報告を年に1回、全議員参加で実施、また分科会所属の議員で品川女子学院生徒との意見交換会を行っていた。若い世代の声を議会が聞くということも学ぶべきだと思った。</li> <li>・ 議会報告、ICT化などを明文化なしに取り組んでいることに、議会としての矜持を感じた。議会として「開かれた」ものにする理念は大切だが、具体的な目標に落とし込まないと継続性が難しいということが分</li> </ul>

かった。

・品川女子学院中等部との意見交換会は若い人に政治や行政のしくみに関心を持ってもらうのに非常に良いと思う。本市議会も若い人たちとの意見交換をすることを検討しており、品川区議会のやり方を参考にすべきと思う。

・平成23年に第1期の議会改革が始まり、現在第4期と様々な取り組みをされている。議会報告会も全員参加でこれまで3回開催され、苦労話も聞き、感心した。中でも関心のあった品川女子学院1年生との意見交換会は学校側の要望で生徒が授業で調査した地域の諸課題についてテーマを決め特別講座として開催され、参加対象が中学生ということに少し戸惑いを覚えたが、意見交換会の在り方として参考になった。職員の多少のサポートはあるものの、議員の積極的な取り組みの姿勢を一番学ばせてもらった。

・議会改革の一環として議会のICT化を進めている自治体が増えている。品川区は対外的情報発信力の強化、議員活動の強化、議会運営機能の強化を目的にタブレットを導入している。本市においても現在、ICT検討部会にて検討が進められているが、グループウェアの導入による日常の連絡等の効率化や議会活動に関する資料の電子配布など、またペーパーレス化も視野に入れての必要性を感じる。

・議会報告会は特に議員が動員をかけるということはない。参加者は意見を言いたい人が多い。議会報告の部分は、常任委員会ごとに5分程度で実施。内容は毎回、正副委員長が取りまとめている。「てんやわんやでやっている」との表現には実感が出ていた。そもそも閉鎖的であった区議会を何とかしようということから、年1回ぐらいなら報告会をやったらということになったが、もともと議会報告会など必要ないという意見の方も多く、後半のグループワークでの意見交換会に力を入れるようにしているとのことだが、なるほどと感じた。議会基本条例は設置していないので、継続性の担保はないが、条例にあるからやらなければいけないというやらされ感はないとのことであった。ただし、議会改革検討組織を設置するという申し合わせは記載しており、改選後などは検討会でまた決めていくことになるとのこと。継続的に行っていくには何らかの実行組織体を設置しておくことの必要性を感じた。

品川女子学院との意見交換会については、私立学校の中等部で従来より地域課題を授業に取り入れたいと考えていたことと、議会側の思いが一致し開催。検討会の議員と校長とのつながりがあり、話が進んだとのこと。但し授業の一環として行っているためテーマも含めて学校側の要請に応じて議会が対応するという形を取っている。生徒側がテーマなども選んでおり、事前の準備などにも議員が参加して、スムーズな進行や話題の盛り上がりにも配慮しているとのことであった。

議会ICT化については、議会だよりデジタルブック配信を平成29年7月より開始。このデジタルブックでは他言語翻訳ができるとのこと

	<p>で、実際のものを見せてもらったが、たいへん有用であると感じた。また、iPad Proを全議員に配布。リースか買い取りか、また政務活動費かで議論になったが、個人のものにするとルール化が困難。結局2年のリースとし、使用規定を定め運用。現在ワードとエクセルを入れてないが、これらのアプリの追加などをどうするかが課題。本市議会でも導入にあたってはどのような位置づけにするかは大きな検討課題であると感じた。現在、本会議の一般質問でのタブレット使用者は1名しかいないが、委員会等では多くの議員がタブレット片手に質疑をしているとのこと、実際に活用されているようであり、本市としても導入を進めるべきと改めて感じた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・議会報告会という形式ではなく意見交換会形式で、普段あまり聞く機会のない若者等の意見を聞くことや議論をすることが有意義と考える。</li> <li>・品川区は、より分かりやすい広報誌発行のために印刷予算を約1.5倍の1,500万円ほど計上しており、多岐にわたる情報を発信しているところが素晴らしい。予算が許されるならば見習いたい。中学生との意見交換会は、本市もしっかり見習うべきと考える。</li> <li>・品川区議会では年に1回議会報告会や品川女子学院との意見交換会を実施されている。議会基本条例は制定していないが、区民への情報発信として自主的に報告会を開催されている。議会改革検討会での結論として実施されており、継続性の担保はない。また、品川女子学院との意見交換会は充実しているようだが、意見交換会での意見を政策として提言することはないようであるが、意見の中から整理して政策提言をすることが必要であると考え。品川女子学院の経験を生かし、さらに幅広く若者世代に意見交換会を拡大していく考えはないようであるが、私は進めていくべきだと考える。ICT化については、文書共有システム、タブレット端末を活用した議会審議がすでに実施されており、また検索機能もあることから、とても便利であると思う。本市もICT化、タブレット導入については見習うべきであると考え。</li> </ul>
<p>委員長の総括</p>	<p>品川区の議会改革の取り組みについて、視察概要に記載のとおり調査を行った。</p> <p>ケーブルテレビ、インターネット、ホームページを最大限に活用し、市民への情報発信に積極的に取り組まれており、学生との意見交換では、若者から意見を発しやすい環境に配慮された運営がされている。</p> <p>本市においても、「ICT検討部会で議会の見える化や情報発信」について、また「若者との意見交換会」について検討しているところであり、タイムリーな視察項目であった。</p> <p>現状に照らし合わせた議会改革に取り組み、市民と市政をつなぐ架け橋となることを目指していく。</p>